



## ♥いせファミリー・サポート・センター第1回提供会員養成講座

### プログラム内容

日程	時間	講座内容	講師(敬称略)	会場
10/21 (土)	10:20~10:30 10:30~12:00 13:00~16:00	開講式・オリエンテーション 子育て支援サービスを提供するために 子どもの栄養と食生活	担当アドバイザー 秋山則子：三重みなみ子どもネットワーク 理事長 馬場啓子：管理栄養士	南 館
10/28 (土)	10:00~11:00 11:05~11:45 12:30~15:30	子どもの生活へのケアと援助 伊勢市の子育て支援/別冊-付-養成講座 心の発達と保育者のかかわり/ 障害のある子どもの預かりについて	伊勢市福祉総合支援センター 保健師 山口昌澄：高田短期大学こども学科 教授	2 F
10/29 (日)	10:00~12:00	子どもの遊び	山野栄子：ユマニテク短期大学 教授	北館 1F
	13:00~16:00	身体の発育と病気	羽根靖之：はね小児科医院 院長	南 館
11/4 (土)	9:30~11:30 12:30~14:30 14:40~16:40	小児看護の基礎知識 保育の心 児童虐待と社会的養護	岡田まり：(株)ジェネラス訪問看護ステーション ほたるいせ 管理者 堀川美子：育児支援アドバイザー 鈴木 聡：三重県児童相談センター市町アドバイザー	2 F
12/2 (土)	9:30~12:30	事故による子どもの傷害/実態・予 防・応急処置/心肺蘇生法	青木恵津子：日本赤十字社三重県支部 参事	F
	13:30~15:00	講座をふりかえって	秋山則子：三重みなみ子どもネットワーク 理事長	
	15:10~15:40	会則・活動記録等の説明	担当アドバイザー	

今年度第1回提供会員養成講座は、度会郡・大台町 FSC との協働で開催します。会場に、講師が実際に来る場合と ZOOM 配信の場合があります。提供会員として登録する方は必ず会場を受講して下さい。

会場：いせ市民活動センター 南館 2階

いせシティプラザ 北館 1階 (〒516-0037 伊勢市岩淵 1-2-29)

対象者：伊勢市内及び近隣市町に在住する20歳以上の人で、受講後提供会員として登録していただける人

募集人数：20人(先着順)

受講料：無料 / 但し、テキスト代(2,100円)は受講者負担となります

申し込み：電話・FAX・メールにてお申し込みください。

※今回、講座日程のすべてを一度に受講できない人はご相談ください。



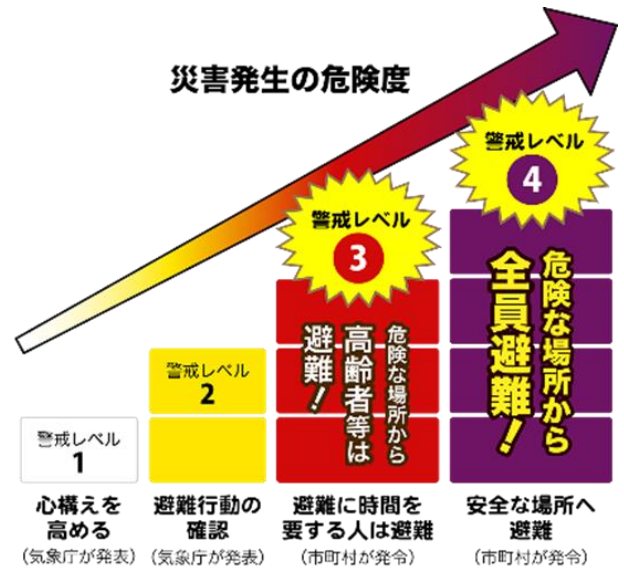
## ♥防災関連情報 その7

### 子育て世帯の防災

日本は自然的な条件から、災害が発生しやすい国です。近年は特に、異常気象の深刻化が問題視され、大雨をもたらす台風や線状降水帯も記憶に新しいです。

伊勢市のハザードマップを見てみましょう。自宅は浸水想定区域内でしょうか？小さい子ども連れなら、警戒レベル3で避難をしたいところです。しかし、子どもがいる世帯での被災体験から、ライフラインが停止しても、まわりに迷惑が掛かると7割近くが自宅で過ごしていると答えています。

避難しても、災害後はライフラインが止まり、支援物資が届くまでの数日間は、家庭備蓄が命綱です。



★自宅が危険区域内で、浸水や倒壊の危険性がある場合は、速やかに、避難所や知人宅などに避難しなければなりません。

楽しく食品ストック ～家庭備蓄のすすめ～ ローリングストックで日常から防災意識を！

生き延びるために必要不可欠な水・食料・トイレは最低3日分、できれば7日分、乳幼児など要配慮者には2週間分！

まずは3日分を目安に備蓄し、その後は時期をずらして少しずつ買い足していく。

農林水産省ホームページから「災害時に備えた食品ストックガイド」を検索

⇒ [guidebook-3.pdf \(maff.go.jp\)](https://guidebook-3.pdf(maff.go.jp))

ローリングストックは、費用、時間も、普段の買い物範囲内で、買い置きスペースも多く必要としない備蓄方法です。普段の生活で、「食べたらずいぶん買い足す」を繰り返すので、一定量の食料を保ちながら、備蓄品の消費期限切れの心配がない。災害時でもいつもの食事が出来るのが、子育て世帯においてどれほど心強いことか。

### 水や食料

- 2kgの米で、1食0.5合の計算で約2.7食分。他にも乾麺やカップ麺、切り餅も。



- ひとり1日水3ℓ、1箱12ℓで4日分。
- おかずになるもの、タンパク質系、野菜系。缶詰、レトルトだけではなく、乾物や日持ちのする根菜類も。野菜ジュース。
- こころの栄養、甘いものや嗜好品。子どもが好きないつものおやつ。
- ミルク、レトルトなどの離乳食、いつものものを多めに。

**簡易トイレ**を備えておくことは必須。目安は、1日トイレ回数×家族分×1週間分。

- 家族構成によって、乳幼児のおむつやペット用トイレなども備えておく。

上記3つ（水・食料・簡易トイレ）以外に、辺りを照らす灯り（懐中電灯やランタン）、携帯を充電するモバイルバッテリーやポータブル電源、調理する際に必要なガスコンロ、ガスボンベ、暑さ・寒さ対策グッズ、生活用品なども必要。

電気が止まると、エアコンも扇風機も使えません、暑いです。台風7号の影響で、伊勢市内でも4時間近く停電した地域がありました。バッテリーと部屋全体を照らすランタンが必需品だったようです。

（中川）



## ♥ 里親シンポジウム

例年開催しております「里親シンポジウム」（三重県主催・NPO 法人三重県子ども NPO サポートセンター受託事業）を、今年度は10月9日に開催いたします。

今年度はこども家庭庁ができ、こども基本法も施行され、子どもの意見表明が大事・子どもの声を聴くことが大事と言われてきています。

里親シンポジウムでは「子どもアドボカシー」をテーマに、熊本学園大学教授の堀正嗣さんに講演していただきます。また、パネルディスカッションでは社会的養護経験者・里親・施設職員をお招きしてディスカッションしていただきます。

また、今年度は会場の入場制限もコロナ前に戻りますので、是非人権センターへお出かけになり、生の講演とディスカッションを聞いていただきたいと思います。



## ♥ 子ども支援者養成講座 WEB 配信が始まりました

今年度の子ども支援者養成講座のうち4講座（「子どもにはチカラがある～子どものエンパワーメントを支える大人の役割～」 「チャイルドラインとは」 「思春期外来の現場から」 「いじめ・不登校」）のビデオをWEB配信します。

会場に来られなかった方にも、好きな時間に好きな所で受講することができます。知っているようで知らない子どものこと、もっと学んでみませんか。

ぜひこの機会にご受講ください。



配信期間：2024年3月31日まで 最終申込み切：2024年3月20日（水祝）

<参加費> 1講座 1,500円

お申し込みはホームページ※よりお願いします。

受講いただく場合は、光回線以上のネット環境が必要です。

環境が不十分ですと、受信できない場合もあります。

ご了承ください。



※チャイルドヘルプライン MIE ネットワークホームページ



## ♡子どもの権利条約

### 第22条

1 締約国は、難民の地位を求めている児童又は適用のある国際法及び国際的な手続き若しくは国内法及び国内的な手続に基づき難民と認められている児童が、父母又は他の者に付き添われているかいないかを問わず、この条約及び自国が締約国となっている人権又は人道に関する他の国際文書に定める権利であって適用のあるものの享受に当たり、適当な保護及び人道的援助を受けることを確保するための適当な措置をとる。

2 このため、締約国は、適当と認める場合には、1の児童を保護し及び援助するため、並びに難民の児童の家族との再統合に必要な情報を得ることを目的としてその難民の児童の父母又は家族の他の構成員を捜すため、国際連合及びこれと協力する他の権限のある政府間機関又は関係非政府機関による努力に協力する。その難民の児童は、父母又は家族の他の構成員が発見されない場合には、何らかの理由により恒久的又は一時的にその家庭環境を奪われた他の児童と同様にこの条約に定める保護が与えられる。



<https://jp.freepik.com/free-photos-vectors/school>

私は難民と聞いても、言葉やメディアで見た状況は知っていても、身近には感じていないのが正直な現状です。そこで少し調べてみました。

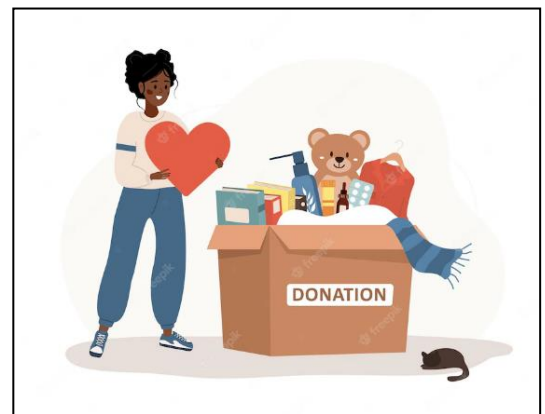
宗教や政策の考え方の違いや、紛争や災害で母国を出なければならない人（いわゆる難民と言われる人）が世界で8,000万を（国際協力機構 JICA の情報）（フリー百科辞典ウィ

キベディアの情報では1億840万人) 超えると報道されています、その4割以上は子どもです。なにも悪いことをしたわけではない、紛争や迫害により、住み慣れた故郷から避難するしか選択肢がないのです。母国を出た人たちはどうなるのでしょうか。そこでユニセフは各国政府に呼びかけ、すべての難民、移民、国内避難民の子どもへの権利と機会の平等を実現するための6つの行動を呼びかけています。

1. すべての子どもに、その出身地に関係なく、平等な支援を提供すること
2. 難民、移民、国内避難民の子どもを、まず何より子どもとして認識し、彼らの保護、発達、参加の権利を認めること
3. すべての避難を余儀なくされた子どもや家族に、その社会的地位に関係なく、保健・医療や教育など必要不可欠なサービスを効果的に提供するための協働を促進すること
4. 難民、移民、国内避難民の子どもを、差別や外国人を嫌悪する風潮から守ること
5. 有害な国境管理の慣習と子どもの入国時の拘留をやめること
6. 難民、移民、国内避難民の若者が才能を発揮し、将来の可能性を十分に実現できるよう力づけること。

とうたっていますが、放映等で避難している難民の子どもたちを見ていると、遊びや、やりたい事や夢など考える余裕もなく、命を守ることが精いっぱいのような気がします。

そしてその人たちのために、国連難民高等弁務官事務所、NPO法人難民支援協会、認定NPO法人国連UNHCR協会名などで、寄付金や着なくなった洋服や、学用品、おもちゃなどの物資の提供を呼び掛けています。



では日本はどのような政策を実施しているのでしょうか。

日本では2019年までの申請数は81,543人。そのうち794人の条約難民を受け入れました。難民と認定しなかったものの、人道上の配慮を理由に在留を認めたものは2,665人となっています。また、2010年からは、第三国定住によって、ミャンマー難民を受け入れており、2019年までに50家族194人を受け入れました。

日本は、受け入れた難民の人々に対して、日本語教室を開いたり、就職等各種相談への対応など、定住促進のためのサポートを行っています。(出典：外務省)とありました。

しかし実際身近に難民の子どもたちが生活していますでしょうか。

いるかもしれませんが私は知りません。子どもの権利やよりよい環境が大切と話していますが、それはすべての子どもに保証されなければ意味がないと思いました。そこでできることは考えると、あまりに大きすぎて現実に結びつきにくいですが、何か出来ることを探していきたいと、今更ですが思いました。

(倉木)



## ♡いろいろお知らせ

♪ **大杉谷自然学校 事前に申し込みが必要です(参加費あり) ⇒ HP:<https://osugidani.jp/>**

### ◎おおすぎっ子クラブ

・11/11(土) ・12/9(土)

時間：10：30～15：00 定員：小学生と家族30人 集合解散場所：大杉谷自然学校

### ◎山と川のようにちえん in 大杉谷

・11/4(土)、12/2(土) 定員：家族40人 時間：10：30～14：30

集合解散場所：大杉谷自然学校

### ◎おおだい森のようちえん(通年募集)

・11/18、12/16 すべて土曜日 定員：40人 時間：10：30～14：30

場所：子ども王国(大台町栃原459) 天候により変更あり

参加：2017/4月2日～2019年4月1日生まれのお子さんとその家族

### ◎家族でキャンプ (テント・マットは自然学校で準備/寝袋レンタルあり)

・10/28(土)～29(日) 定員：家族・一般25人 時間：1日目13：00～2日目14：00

集合解散場所：大杉谷自然学校



♪子ども服のリサイクル交換コーナー(無料)常設中 (もらっていくだけでもOK!)

♪毎月11日はイオンのイエローレシートの日!! (イオン伊勢店、マックスバリュラパーク店の三重みなみ子どもネットワークのBOXにイエローレシート入れて下さいね<m(\_)\_m>)

♪チョコレート・カテキン茶・乾燥あげ・こんにやく・野田あられも買っていただくことでチャイルドラインへの寄付金になります! ご入用の方はみんなネット事務所までお問合せ下さい。

なお、使用済みインクカートリッジ回収は終了しました!! 今までご協力いただいた皆さまありがとうございました。

## 随時発行

《発行》NPO 法人三重みなみ子どもネットワーク  
【みんなネット】

Tel 0596-28-5692 Fax 0596-28-5679  
〒516-0037 伊勢市岩渕 2-3-13

